

民活事業報告書（令和2年度）

事業名：多摩地域ユース・プラザ運営等事業

教育庁地域教育支援部

第1 事業概要

旧東京都立八王子高陵高等学校(以下「学校施設」という。)を改修・整備して運営を行ってきた多摩地域ユース・プラザ整備等事業の終了に伴い、引き続き多摩地域ユース・プラザとして、文化・学習施設、スポーツ施設、野外活動施設、宿泊施設等から構成される施設(以下「本件施設」という。)の一体的な運営を行う。

1 所在地

東京都八王子市川町55番地

2 事業内容

(1) 施設の運営

ア 文化・学習施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

イ スポーツ施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

ウ 野外活動施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

エ 宿泊施設の利用受付及び料金徴収等の施設提供業務

オ 社会教育業務（講座・体験活動・交流等）の実施

カ 青少年の活動に関する相談への対応並びに情報の収集及び提供

キ 利用者に対する飲食の提供及び物品の販売

ク 文化・スポーツ教室の主催等及び施設を有効利用する観点から行う各種の事業

ケ 施設の利用促進を図るために必要となる営業及び広報活動

(2) 施設の維持管理

建築物保守管理業務ほか施設の維持管理のために必要な一切の業務

3 事業期間

運営を開始した日から10年間とする。

○方式とし、事業期間終了時に都に本件施設等を返還する。

第2 事業評価

1 利用実績

(1) 宿泊利用実績

ア 宿泊室

利用実績						事業者提案	
令和2年度		令和元年度		増減		利用者数	利用率
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b		
5,552人	9.1%	31,909人	44.3%	△26,357人	△82.6%	33,800人	47%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員204人×営業日数)で除した割合

イ テントサイト

令和2年度		令和元年度		増減	
a 利用者数	利用率	b 利用者数	利用率	a-b	(a-b)/b
131人	0.4%	949人	2.7%	△818人	△86.2%

※ 利用率は、(利用者数)を(定員100人×営業日数)で除した割合

(2) 活動施設利用実績

利用実績			
令和2年度 (a 利用者数)	令和元年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
56,343人	98,641人	△42,298人	△42.9%

(3) その他日帰り利用実績

令和2年度 (a 利用者数)	令和元年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
14,279人	18,927人	△4,648人	△24.6%

(4) レストラン利用実績

令和2年度 (a 利用者数)	令和元年度 (b 利用者数)	増減	
		a-b	(a-b)/b
33,239人	125,167人	△91,928人	△73.4%

(5) 利用料金等収入実績

(金額：千円)

種別	令和2年度 (a 金額)	令和元年度 (b 金額)	増減		事業者提案
			a-b	(a-b)/b	
利用料金	37,984	128,711	△90,727	△70.5%	
その他	3,668	9,353	△5,685	△60.8%	
合計	41,652	138,064	△96,412	△69.8%	148,698

※ 利用料金には、備品、活動支援プログラム及び社会教育事業参加費を含む。

※ その他には、売店、自動販売機等を含む。

2 モニタリング

(1) 業務履行確認

ア 履行確認の考え方

都は、事業者が本件契約において定められた公共サービスを提供することを条件として、サービス購入料を支払い、建物及び土地の無償での利用を認める。そこで、都は、都の要求水準が満足されているか否かについて、履行確認を行う。

イ 業務履行確認の方法等

別紙1のとおり

(2) 財務状況等の監視

都による京王ユース・プラザ（株）（以下「SPC」という。）の財務状況等の監視については、本件事業契約上の規定により、事業期間の終了に至るまで、各事業年度の最終日から90日以内に公認会計士の監査済財務書類を都に提出し、かつ、協議会において都に対して監査報告を行うこととしている。

令和2年度分監査報告については、令和3年6月21日の協議会において報告を受け、公認会計士による監査済みであることを確認した。

第3 SPCの経営状況

損益計算書

〔 令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで 〕

科 目	金 額	
	千円	千円
営業収益		413,659
営業費用		389,477
売上総利益		24,181
一般管理費		13,430
営業利益		10,751
営業外収益		
受取利息	863	
雑収入	4,450	5,313
営業外費用		
雑支出	0	0
経常利益		16,064
特別利益		
固定資産受贈益	0	0
税引前当期純利益		16,064
法人税、住民税及び事業税		4,250
法人税等調整額		1,325
当期純利益		10,489

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

貸借対照表

(令和 3年 3月31日現在)

科 目	金 額	科 目	金 額
	千円		千円
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
流 動 資 産	665,052	流 動 負 債	170,169
現 金 及 び 預 金	2,085	リ ー ス 債 務	6,301
運 用 預 け 金	545,621	未 払 金	159,319
未 収 入 金	109,114	未 払 法 人 税 等	0
未 収 消 費 税 等	1,214	前 受 金	2,762
未 収 還 付 法 人 税 等	698	預 り 金	1,540
商 品	570	前 受 収 益	246
仕 掛 品	0		
貯 蔵 品	1,345	固 定 負 債	18,905
前 払 費 用	3,893	リ ー ス 債 務	18,905
そ の 他 の 流 動 資 産	507		
固 定 資 産	235,888		
有 形 固 定 資 産	188,254	負 債 の 部 合 計	189,075
建 物	151,113		
構 築 物	7,109		
工 具 器 具 備 品	7,593		
リ ー ス 資 産	22,437		
無 形 固 定 資 産	0	(純 資 産 の 部)	
ソ フ ト ウ ェ ア	0	株 主 資 本	711,865
投 資 そ の 他 の 資 産	47,633	資 本 金	50,000
長 期 前 払 費 用	115	資 本 剰 余 金	50,000
繰 延 税 金 資 産	2,498	資 本 準 備 金	50,000
長 期 差 入 保 証 金	45,020	利 益 剰 余 金	611,865
		そ の 他 利 益 剰 余 金	611,865
		繰 越 利 益 剰 余 金	611,865
		純 資 産 の 部 合 計	711,865
資 産 の 部 合 計	900,940	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	900,940

(記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。)

第4 総合評価

1 利用実績

令和2年度は多摩地域ユース・プラザ運営等事業の6年目となったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言による外出自粛要請や営業活動の縮小等により、極めて厳しい事業年度となった。

学校団体や青少年団体などによる利用が中心ではあったものの、全館の臨時休業(4月4日から5月27日まで)や営業時間の短縮の影響に加え、学校団体の利用キャンセルが増加したため、利用者数が前年実績より大幅に下回った。宿泊利用実績と活動施設利用実績については以下のとおりである。

令和2年度の宿泊室利用実績は、前年度比26,357人減の5,552人となり、事業者提案時の計画33,800人を28,248人下回る実績となった。活動施設利用実績は、前年度比42,298人減の56,343人となった。

令和3年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を徹底し、利用者が安心安全に施設を利用できる環境を整えるようS P Cに働き掛けを行っていく。

2 業務の履行状況

運營業務については、全従業員に対しての検温、マスク着用及び手洗い消毒を徹底の上、前年度に引き続き、活動室などの施設提供業務をはじめ、S P Cのノウハウを活用した効果的・効率的な履行がなされた。

ユース・スクエア事業については、活動団体の発表の相談を受けたものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から利用を見合わせた。活動プログラムについては、内容や活動場所、最低利用人数等の定期的な見直しを行い、利用者の多様なニーズに応える努力がなされた。

社会教育事業については、当初10事業を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、7事業を中止した。

なお、当該施設の社会教育事業は、野外活動型施設の特長を生かし、利用者に魅力のある事業が実施されている。公共性・社会性や都の施策、施設を訪れる青少年等の傾向・特徴等を踏まえた上で、多角的ニーズに応える、より現実や実態に即した事業とするため、引き続き教育庁の専門職員(社会教育主事)によるS P Cに対する助言を行っていく。

3 経営状況

S P Cの経営状況は、損益計算書によると、当期純利益は10,489千円であった。事業者提案時の計画における当期利益8,711千円を上回っている。

また、貸借対照表によると、負債の合計が189,075千円であった。流動資産は665,052千円であり、流動負債170,169千円を大きく上回っていることから、資金繰りについても健全なものであったと認められる。

以上のことから、令和3年3月末の時点においてS P Cの経営状況は健全なものと認める。

業務履行確認の方法等

	方 法	回 数	指 標
業務の履行確認	書類（業務報告書）による確認 計画どおりに業務を行っていることを確認した。 ※ 提出時にヒアリングを実施した。	12回 (月1回)	年間業務計画 ※ 年間業務計画は、業務要求水準、事業者提案、事業契約、その他確認事項に基づき前年度に作成し、都が確認する。
施設の運営及び維持管理状況の確認	現地立入確認 ヒアリング 日報等記録の確認 施設の視察 業務要求水準等に基づき適正に運営・維持管理されていることを確認した。	4回 (1)R2.7 (2)R2.10(オンライン開催) (3)R3.1(オンライン開催) (4)R3.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
利用者モニタリング	利用者アンケート 事業者が行っているアンケートの内容及び対応をヒアリング確認することにより、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	4回 (1)R2.7 (2)R2.10 (3)R3.1 (4)R3.4	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
	利用者懇談会 事業者が開催する利用者懇談会の記録の確認により、利用者からの指摘及びその対応について確認した。	1回 (R3.1～2) アンケート実施	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画 その他確認事項
社会教育事業履行確認	書類（業務報告書）による確認 事業が計画どおりに実施されていることを確認した。	12回 (月1回)	業務要求水準 事業者提案 事業契約 年間業務計画及びモニタリング事項 社会教育事業等企画委員会における協議事項等

経営成績について

京王ユース・プラザ株式会社

「高尾の森わくわくビレッジ」は開業から16年目となる本年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や政府の緊急事態宣言に伴う自治体の外出自粛要請や営業活動の縮小、学校教育団体を始めとする集団行動の著しい制限等により、当社にとって極めて厳しい事業年度となりました。

この未曾有の状況のもと、従業員や利用者の安全を最優先に考慮し、全館の臨時休業や営業時間の短縮など、政府の方針に則った感染防止策を東京都と連携して講じるとともに、全従業員に対しての検温・マスク着用・手洗い消毒の徹底、感染対応の行動フローの作成と周知により、危機管理対策の実施に取り組んで参りました。

施設管理面では、2018年度から継続して実施している空調機更新工事を着実に推進したほか、受水槽の更新、照明のLED化、体育室の床補修など、環境にやさしく、快適にご利用いただける施設としての整備を推進いたしました。

また、営業面では、一向に収まらない学校教育団体等の利用キャンセルに対処すべく、プログラムの出張販売の開始、更には家族等の小規模団体を補完ターゲットに捉えてのSNS媒体を用いた新規広報活動展開やHPの改修に取り組み、新規顧客の開拓と当月予約客の獲得に努めて参りました。

しかしながら、営業縮小や大規模団体の利用減の影響は大きく、年間の宿泊者数につきましては開業以来最も少ない5千人、活動施設の利用者数につきましても開業以来最も少ない56千人となりました。

収支状況に関しましては、営業収益が対前年94百万円減の413百万円、営業費用は対前年81百万円減の389百万円となりました。

以上の結果、経常利益は対前年12百万円減の16百万円、当期純利益は対前年8百万円減の10百万円となりました。

損益計算書について

京王ユース・プラザ株式会社

営業収益は、対前年 94,903 千円減の 413,659 千円を計上しました。増減内訳は現地収入が利用者減による宿泊収入の減等により 96,412 千円の減少となりました。

また、東京都からのサービス購入料は企業物価指数の上昇による改定等により 1,508 千円の増となりました。

営業費用は、対前年 81,692 千円減の 389,477 千円を計上しました。主な支出内容は売上原価、修繕費、業務委託費、備用品費、水道光熱費等で、増減内訳は売上原価 33,044 千円の減、業務委託費 22,953 千円の減、水道光熱費 15,597 千円の減、修繕費 8,344 千円の減等によるものです。

一般管理費は、対前年実績とほぼ同じ 13,430 千円を計上しました。主な支出内容は役員報酬、業務委託費等です。業務委託費は主に京王アカウンティングに対する経理業務委託費です。

その結果、営業利益は 10,751 千円となりました。

営業外収益は 5,313 千円で、受取利息の他、N T T ドコモ・ソフトバンクのアンテナ設置料等を計上しております。

営業外費用は 72 円です。

以上の結果、経常利益は 16,064 千円となりました。

特別利益、損失の計上はありませんでした。

その結果、税引前当期純利益も同じく 16,064 千円となりました。

法人税、住民税及び事業税および法人税等調整額を差し引いた当期純利益は 10,489 千円となりました。

貸借対照表について

京王ユース・プラザ株式会社

当期末の総資産は、900百万円となりました。前期末と比較して、30百万円の減少となっております。増減の主なものは、資産の部で運用預け金が64百万円の減少、有形固定資産が43百万円の増加。負債の部で未払金が60百万円の減少、純資産の部で当期純利益の計上により繰越利益剰余金が10百万円の増加です。

各科目の主な内容は、以下のとおりです。

流動資産は、対前年71百万円減の665百万円となりました。

現金及び預金は、ほとんどがお客様からお預かりしている予約金です。

運用預け金は、余剰資金を京王電鉄グループ内キャッシュマネジメントシステムで資金運用をしております。損益計算書の営業外収益・受取利息はこの資金運用によるものです。

未収入金は、第4四半期分サービス購入料等です。

商品は、売店の商品です。

貯蔵品は、パンフレットや収入印紙等です。

前払費用は火災・傷害保険料の翌年度分等です。

その他の流動資産は、東京都への立替金等です。

固定資産は、対前年41百万円増の235百万円となりました。

このうち有形固定資産は給排水設備の受水槽更新、ブレーカー更新等です。

繰延税金資産は、未払事業税、事業所税および一括償却資産相当分です。

長期差入保証金45百万円は、東京都への契約保証金です。

以上により、資産の部は対前年30百万円減の900百万円になりました。

次に、流動負債は対前年59百万円減の170百万円となりました。

リース債務は、電気自動車等充電設備機器の1年以内返済分です。

未払金は京王電鉄への業務委託料等の未払分です。

前受金は、お客様から預かっている予約金です。

預り金は、館内レストラン（レストラン京王）の売上金です。

前受収益は、翌年度分のアンテナ設置料等です。

固定負債は、その全額が電気自動車等充電設備に係るリース債務で、対前年18百万円増の18百万円となりました。

以上により、負債の部は対前年40百万円減の189百万円となりました。

最後に純資産の部ですが、資本金、資本剰余金は増減なく、利益剰余金に当期純利益10百万円を加算した結果、純資産の部は対前年10百万円増の711百万円になりました。